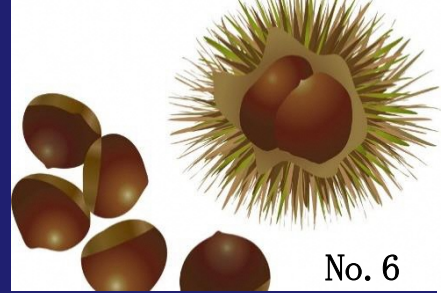


協力隊通信：美和地域

岩国市美和総合支所 農林建設課

地域おこし協力隊 沖野 修吾

TEL0827-96-1112



No. 6

時間が経ってしまいましたが、昨年の収穫期の様子をご報告します。

夏頃には、花芽も多く豊作になるのでは？と皆が期待していましたが、空梅雨などの気候変動の影響でしょうか、生理落下が多く収穫量はそこそこという結果でした。

収穫タイミングも例年よりは少し遅く、10月下旬がピークだったように思います。



■ 岸根ぐりの特徴

- 先ず、収穫期が他の栗に比べてかなり遅いのに驚きました。晩生品種だとは聞いていましたが、早生品種の収穫が9月下旬から10月上旬、中生品種が10月上旬から10月中旬、晩生品種の岸根ぐりは10月中旬から10月下旬です。他の品種の収穫が全て終わっているのにまだ樹上で青々とした様子を見て本当に驚きました。
- この収穫期の遅さが岸根ぐりの実が大きくなる理由の一つかなとも思いました。他の品種は毬に包まれた状態で落ちてきますが、岸根ぐりはその実が大きいため、毬を樹上に残したまま実だけがコロコロと落ちてきます。
- ですので、収穫の楽しさも少し違います。通常の栗は足で毬を踏みつけて火ばさみなどで挟んで収穫しますが、岸根ぐりは下草に隠れたり、斜面を転がった先を探したりと全く様子が違いました。毬がないため素手でも収穫できる場面が多く、とても楽しい作業でした。



出荷式と品評会

- 生産者の栽培意欲と技術向上、更に町の宝としての岸根ぐりを再認識することを目標に平成13年から出荷式と併せ岸根ぐり品評会が実施されています。例年10月の下旬に行われていますが、去年は収穫時期が少し遅かったため、出荷式は10月、品評会は11月に行われました。
- 去年は地元の美和西小学校の生徒たちが日程を合わせて両行事に参加してくれました。出荷式では、急遽テープカットや初荷出荷作業などの行事にも参加してもらい、とても和やかな雰囲気で行われました。
- 品評会では、開催日を変更したことが功を奏し、びっ栗賞には約75gの大きな栗が出品され大賞を受賞しました。大きさが特徴の岸根ぐりですから関係者の方々もとても喜んでいました。



継続した苗木育成に向けて

- 昨年度は着任したばかりのタイミングでしたが、現状を把握しながら即、苗木の育成に取り掛かれたのは良かったです。母樹園からの採取で種にする栗の数も限られていましたが、現在約50本の苗木が育っており、このうち、移植や接木が成功するのが何割かは分かりませんが、母樹園の再生には足りると思っていました。
- 活動を行う中、母樹園では多くて20本程度の系統樹を再生できる広さがありますが、将来を考えると数に不安があります。民間のほ場でも記録と現物が確認できる系統樹を増やそうと計画をし、遊休耕作地をお借りして開拓・整備中です。それらのほ場に必要苗木も育成していかなければなりません。
- また、地域の栗生産者さんが必要とする苗木は、JA依頼で岸根ぐりの系統樹から接木をして育てている生産者さんがいらっしゃいますが、その数は年間100本と少なく実際の需要は年間1,000本近く必要との事です。収穫できる栗そのものの数や育成成功率にもよりますが、産地振興の為、出来る限り苗木育成の数を増やして良い苗木を提供できるよう、現在準備活動中です。

